

日本学術会議主催学術フォーラム SDGsの達成に資するESDカリキュラムの開発



2023年8月20日(日) 13:00~17:00

場所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34、地下鉄千代田線乃木坂駅出口5 青山霊園側）
オンライン併用

申込みURL：<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0231.html> 締切 8月18日、参加費無料です。

問合せ先：鈴木康弘（名古屋大学減災連携研究センター、resilience.nagoya@gmail.com）



企画：日本学術会議フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会 持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会
後援：Future Earth 国際事務局日本ハブ、地理学連携機構、日本ESD学会、(一社)日本環境教育学会、ESD活動支援センター、NPO法人ESD-J、(公財)ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)、(公財)笹川平和財団海洋政策研究所、人間文化研究機構総合地球環境学研究所

国連の持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組が広がり、小中高の教科書でも多く取り上げられています。これを成功させるには、多くの国際持続性研究プログラムを束ねるフューチャー・アースとの連携とともに、幅広い環境教育で実績のあるESD（持続可能な開発のための教育）の推進が重要です。そのようなSDGsに資するESDカリキュラムの開発について、研究者や教員の報告を参考に皆で考えましょう。中高生、大学生、一般の皆様も是非ご参加ください。

総合司会：鈴木 康弘（日本学術会議連携会員、名古屋大学減災連携研究センター教授）
嵩倉 美帆（公益財団法人笹川平和財団海洋政策研究所研究員）

開会挨拶・趣旨説明（13:00~13:10）

水見山幸夫（日本学術会議連携会員、北海道教育大学名誉教授）

第I部 初等教育のカリキュラム開発（13:10~13:55）

報告1「ようこそ昆虫ワールドへ：創作活動と接続した環境学習」

新井 雅晶（東京都足立区立北鹿浜小学校前副校長）

報告2「実験と観測データに基づく海洋教育の教材開発」

丹羽 淑博（日本学術会議特任連携会員、国立極地研究所特任研究員）

報告3「水族館における学校と連携した教育普及活動の実践と課題」

天野 未知（公益財団法人東京動物園協会教育普及センター長）

第II部 中等教育のカリキュラム開発（13:55~14:40）

報告4「海洋ごみ問題への取り組みを通じた中高生の学びと成長」

井上 貴司（山陽学園中学校・高等学校教頭補佐・地歴部顧問）

報告5「東アジアで平和教育を進めるために何が必要か？」

小林 亮（日本学術会議特任連携会員、玉川大学教育学部教授）

報告6「魚介類の3D模型を活用した ESD 教材開発」

小川 博久（武蔵野大学非常勤講師）、小川 展弘（東京大学大気海洋研究所技術専門職員）

休憩（14:40~14:55）

第III部 高等教育と教員研修のカリキュラム開発（14:55~15:40）

報告7「大学地理教育を通じたSDGs・ESDの推進」

小田 宏信（日本学術会議特任連携会員、成蹊大学経済学部教授）、財城真寿美（成蹊大学経済学部教授）

報告8「児童生徒の行動変容につながるSDGs教員研修とは」

本図 愛実（宮城教育大学教職大学院教授）、市瀬 智紀（宮城教育大学教育学部教授）

報告9「持続可能な未来を創る N 助型減災教育研修プログラム」

及川 幸彦（奈良国立大学機構・奈良教育大学准教授）

ディスカッション（15:40~16:55）

司会：窪川 かおる（日本学術会議連携会員、帝京大学先端総合研究機構客員教授）

ユースコメンテーター：清常翔太（福井県立若狭高等学校2年）、山本侑奈（福井県立若狭高等学校3年）、

伊藤夕妃（早稲田大学社会科学部4年）、小山内佐和（町田市立鶴川第一小学校教諭）

コメンテーター：日置 光久（日本学術会議連携会員、学校法人希望が丘学園・学園統括顧問）、

春日 文子（日本学術会議連携会員、長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授）

閉会挨拶（16:55~17:00）

谷口 真人（日本学術会議連携会員、人間文化研究機構総合地球環境学研究所副所長・教授）

12:00~17:30 に会場入り口前のロビーで関連するポスターの展示も行われます。